

(様式第 10)

北里病発第 27-90 号
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 北里研究所
理事長 藤井 清孝 (印)

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8641 東京都港区白金五丁目 9 番 1 号
氏 名	学校法人 北里研究所

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

北里大学病院

3 所在の場所

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里一丁目 1 5 番 1 号	電話(042) 778 - 8111
--	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 内分泌・代謝内科 2 腎臓内科 3 血液内科 4 リウマチ科 5 感染症内科 6 アレルギー科 7 消化器内科 8 循環器内科 9 呼吸器内科 10 神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 乳腺・内分泌外科 3 小児外科 4 呼吸器外科 5 心臓血管外科 6 心臓外科 7 血管外科 8 小児心臓血管外科 9 形成外科 10 美容外科 11 頭頸部外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科 2 病理診断科 3 リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0 床	0 床	0 床	0 床	1,033床	1,033床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	590人	93人	601.7人	看 護 補 助 者	109人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	2人	3人	3.1人	理 学 療 法 士	26人	臨 床 検 査 技 師	127人
薬 剤 師	86人	4人	89.1人	作 業 療 法 士	6人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	14人	0人	14人	視 能 訓 練 士	16人	そ の 他	0人
助 産 師	55人	0人	55人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	1243人	19人	1252.4人	臨 床 工 学 士	41人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	17人
准 看 護 師	1人	0人	1人	栄 養 士	1人	そ の 他 の 技 術 員	4人
歯 科 衛 生 士	3人	0人	3人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	206人
管 理 栄 養 士	25人	0人	25人	診 療 放 射 線 技 師	81人	そ の 他 の 職 員	110人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	41人	眼科専門医	18人
外科専門医	51人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	9人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	14人
産婦人科専門医	16人	救急科専門医	16人
		合 計	243人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
① 1日当たり平均入院患者数	767.3人	0人	767.3人
② 1日当たり平均外来患者数	2,430.5人	26.6人	2457.1人
③ 1日当たり平均調剤数			2,071剤
④ 必要医師数			218人
⑤ 必要歯科医師数			1人
⑥ 必要薬剤師数			26人
⑦ 必要(准)看護師数			466人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	1,125m ²	鉄筋コンクリート	病床数	72床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 212.22 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	20床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 67.30 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	228.87m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	159.02m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ、全自動同定感受性装置、安全キャビネット、孵卵器			
病理検査室	521.58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ラミナーテーブル、切り出し台、撮影装置、顕微鏡、遠心器、遺伝子解析装置、PCR、VIP、自動染色装置、自動封入装置、包埋センター			
病理解剖室	316.90m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、切り出し台、ラミナーテーブル、撮影装置			
研究室	4,946.80m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細胞解析装置、マイクローム、電子顕微鏡超低温フリーザ、高速冷却遠心機			
講義室	2,952.67m ²	鉄筋コンクリート	室数	27室	収容定員	2,248人
図書室	2,370m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	19万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	69.1%	逆紹介率	49.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数	21,145人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	16,784人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,369人	
	D: 初診の患者の数	34,027人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	103人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	93人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	140人	・原発性胆汁性肝硬変	69人
・全身性エリテマトーデス	543人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	86人
・再生不良性貧血	42人	・混合性結合組織病	77人
・サルコイドーシス	83人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	3人	・特発性間質性肺炎	24人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	358人	・網膜色素変性症	29人
・特発性血小板減少性紫斑病	125人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	69人	・肺動脈性肺高血圧症	17人
・潰瘍性大腸炎	616人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	37人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	23人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	46人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	37人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	279人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	25人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	221人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	17人
・後縦靭帯骨化症	55人	・肥大型心筋症	6人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	42人	・ミトコンドリア病	9人
・ウェゲナー肉芽腫症	13人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	144人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	25人	・黄色靭帯骨化症	5人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	99人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料	データ提出加算1・2
臨床研修病院入院診療加算	救命救急入院料1
救急医療管理加算	救命救急入院料4
超急性期脳卒中加算	特定集中治療室管理料3
妊産婦緊急搬送入院加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
診療録管理体制加算	ハイケアユニット入院医療管理料2
急性期看護補助体制加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
看護職員夜間配置加算	小児特定集中治療室管理料
療養環境加算	総合周産期特定集中治療室管理料
重症者等療養環境特別加算	小児入院医療管理料1
無菌治療室管理加算	小児入院医療管理料4
緩和ケア診療加算	・
精神科リエゾンチーム加算	・
がん診療連携拠点病院加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算	・
感染防止対策加算	・
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊婦管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・
退院調整加算	・
新生児特定集中治療室退院調整加算	・
救急搬送患者地域連携紹介加算	・
呼吸ケアチーム加算	・
病棟薬剤業務実施加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)①

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	検体検査管理加算(Ⅳ)
心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	遺伝カウンセリング加算
高度難聴指導管理料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
糖尿病合併症管理料	時間内歩行試験
がん性疼痛緩和指導管理料	胎児心エコー法
がん患者指導管理料	ヘッドアップティルト試験
外来緩和ケア管理料	人工臓臓
移植後患者指導管理料	皮下連続式グルコース測定
糖尿病透析予防指導管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
外来リハビリテーション診療料	神経学的検査
外来放射線照射診療料	補聴器適合検査
ニコチン依存症管理料	小児食物アレルギー負荷検査
地域連携診療計画管理料	内服・点滴誘発試験
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)(Ⅱ)	センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
がん治療連携計画策定料	画像診断管理加算1
がん治療連携管理料	画像診断管理加算2
肝炎インターフェロン治療計画料	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影
薬剤管理指導料	CT撮影及びMRI撮影
医療機器安全管理料1	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料2	外傷全身CT加算
歯科治療総合医療管理料	大腸CT撮影加算
在宅患者訪問看護・指導料	心臓MRI撮影加算
持続血糖測定器加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
造血器腫瘍遺伝子検査	外来化学療法加算1
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	無菌製剤処理料
検体検査管理加算(Ⅰ)	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)②

施設基準の種類	施設基準の種類
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	経皮的中心隔心筋焼灼術
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
難病患者リハビリテーション料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
集団コミュニケーション療法料	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
歯科口腔リハビリテーション料2	両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	補助人工心臓
透析液水質確保加算	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
磁気による膀胱等刺激法	経皮的動脈遮断術
一酸化窒素吸入療法	ダメージコントロール手術
皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	腹腔鏡下肝切除術
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	生体部分肝移植術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	同種死体腎移植術
網膜再建術	生体腎移植術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	膀胱水圧拡張術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	人工尿道括約筋植込・置換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	胎児胸腔・羊水腔シャント術
経皮的冠動脈形成術	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
経皮的冠動脈ステント留置術	輸血管管理料Ⅰ

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準療法に関する研究	小泉 和二郎	消化器内科学	6,000,000円	補 ⑤委 厚生労働科学研究委託費
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズム	日高 央	消化器内科学	60,000円	補 ⑤委 厚生労働科学研究委託費
「難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究」	堅田 親利	消化器内科学	300,000円	補 ⑤委 厚生労働科学研究委託費
治験の実施に関する研究 [モノエタノールアミノレイン酸塩]	日高 央	消化器内科学	300,000円	⑤補 委 公益法人 日本医師会
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Kv1.3移入線維芽細胞による不全心筋の活動電位再生と逆理モデリング誘導の研究	庭野慎一(主) 庭野裕恵(分担)	循環器内科	5,000,000	補委	文部科学省科学研究助成金
糖尿病における心筋酸化ストレスと不整脈基盤 形性の機序および制御に関する研究	庭野裕恵(主) 庭野慎一(分担)	循環器内科	5,000,000	補委	文部科学省科学研究助成金
慢性疾患の重症化予防を目指した先進的疾患管理システムの有効性に関する研究	東條美奈子(分担)	循環器内科	4,478,000	補委	文部科学省科学研究助成金
腎機能の低下した非代償性心不全患者に対するトルバプタンの有用性に関する検討	猪又孝元(主)	循環器内科	10,000,000	補委	日本腎臓財団支援臨床研究事業
循環器病の地域医療連携のモデル化に関する研究	東條美奈子(分担)	循環器内科	800,000	補委	循環器病研究開発費
新たな骨格筋電気刺激法は心不全で入院した後期高齢者の運動機能低下を予防する	東條美奈子(分担)	循環器内科	4,000,000	補委	日本心臓財団・日循協
下肢筋力の健康度は高齢循環器疾患患者の生命予後並びに機能予後を予測する	東條美奈子(分担)	循環器内科	5,000,000	補委	日本心臓財団・日循協
				補委	
				補委	
				補委	

計 7

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
p40phoxsiRNAによる好中球NET放出抑制が全身性エリテマトーデス(SLE)の進展に与える治療効果	竹内康雄	腎臓内科	1300(千)円	補委	日本学術振興会基盤(C)
新規作成マウスネフリン障害巣状糸球体硬化症モデルにおける糸球体前駆細胞の解析	内藤正吉	腎臓内科	3,100,000円	補委	平成27年度科学研究費
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	西山和利	神経内科学	700,000	補	厚生労働科学研究費委託費
ミトコンドリア病診療の質を高める、レジストリシステムの構築、診断基準・診療ガイドラインの策定および診断システムの整備を行う臨床研究	飯塚高浩	神経内科学	500,000	補	厚生労働科学研究費委託費
ヒト神経可逆性への神経治療薬の影響:神経変性疾患の新しい視点の病態生理解明の基盤	花島律子	神経内科学	1,500,000	補	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C
神経疾患における時間情報処理の中核機構に関する総合的検討	花島律子	神経内科学	500,000	補	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C
新規の孤発性ALSマウスモデルの作製	永井真貴子	神経内科学	900,000	補	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	400,000	補	厚生労働省
危険因子を同定する検診制度導入によるリウマチ制圧プロジェクト	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	200,000	補	厚生労働省
骨髄の遺伝子発現異常ががん・間質相互の病態形成に及ぼす影響の解析	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	300,000	補	文部科学省
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
一酸化窒素・水素ガス吸入によるARDS軽減効果の解析	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	1,500,000	補 委 文科省
虚血再灌流治療後の有害事象を軽減し健康寿命を延ばすための革新的吸入ガス治療法の非臨床開発研究	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	4,000,000	補 委 科学技術振興機構 JST
電気透析と人工分子シャペロンを組み合わせたアルブミン結合毒素除去によるアルブミン再生	小林弘祐(北里大学 小久保謙一 分担研究)	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	100,000	補 委 文科省
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温と水素吸入ガス併用療法の効果に関する研究	小林弘祐(香川大学 日下 隆 分担研究)	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	50,000	補 委 文科省
				補 委
				補 委
				補 委

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
発達障害児の漢字の読み書き能力および障害メカニズムに関する認知神経心理学的研究	井上勝夫	精神神経科	250,000	補	文科省
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己毛包幹細胞を用いた末梢神経と脊髄損傷に対する再生医療	天羽康之	医学部皮膚科	200万円	補	テルモ科学技術振興財団
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
確立論的アプローチによる前立腺癌の腫瘍制御確率モデルの開発	石山 博條	放射線治療科	1,430,000円	補 委	学術研究助成 基金助成金
肺癌個別最適化医療に資するバイオマーカーと標準的放射線療法の確立に関する臨床的研究	早川 和重	放射線治療科	2,763,000円	補 委	学術研究助成 基金助成金
放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究	早川 和重	放射線治療科	300,000円	補 委	国立がん研究 センター研究 開発費
前立腺癌に対する少分割強度変調放射線治療の第Ⅱ相試験	石山 博條	放射線治療科	1,000,000円	補 委	公益財団法人 がん集学的治 療研究財団
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	渡邊 昌彦	外科	25万	補 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	佐藤 武郎	外科	25万	補 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する他施設共同試験	菊池 史郎	外科	110万	補 委 厚生労働科学研究委託費革新的がん医療実用化研究事業
大腸癌分子標的フォスファターゼとラス遺伝子の治療可能性について検討	渡邊 昌彦	外科	130万	補 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
癌におけるepigenetic治療の可能性とp53経路の関係	山下 継史	外科	130万	補 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
手術室映像配信システムを用いた医学教育に関する研究	北村 律	心臓血管外科	1,100,000	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(基 盤研究C)
血流可解析技術による心 負荷評価システムに基づ く左心低形成症候群外科 治療戦略の確立	岡 徳彦	心臓血管外科	1,200,000	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(基 盤研究C)
遠隔期心機能予後を向上 させる心臓血管手術を行 うための、血流解析システ ムの構築	板谷 慶一	心臓血管外科	1,000,000	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(若 手研究B)
冠動脈血行再建戦略の 最適化のための生理学的 血流動態シミュレーション システムの構築.	宮地 鑑	心臓血管外科	1,800,000	補 委	文部科学 省科学研 究費補助 金(基盤研 究C)
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
各種プロテオーム解析を用いた微乳頭構造を呈する肺腺癌特異的マーカーの獲得	佐藤 之俊	呼吸器外科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
中皮腫における胸腔内治療法の構築及び新規バイオマーカーの探索	塩見 和	呼吸器外科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
慢性椎間板性腰痛機序 解明と新規薬物治療に関 する研究	宮城 正行	整形外科	2,000,000	補 委	公益財団 法人上原 記念生命 財団
成長因子アンカーリング 型運動器再生シーズの顕 在化・育成研究	高相 晶士	整形外科	3,200,000	補 委	文部科学 省
成長因子固相化技術を応 用した革新的骨軟骨移植 法の確立	小沼 賢治	整形外科	1,400,000	補 委	文部科学 省
機能性人工骨膜組織の 創生と難治性骨折治療へ の対応	高相 晶士	整形外科	1,300,000	補 委	文部科学 省
整形外科と細菌学の融 合による新規骨折治癒促 進法の開発	内田 健太郎	整形外科	900,000	補 委	文部科学 省
エムアールアイを用いた 肩関節動態解析による腱 板機能評価法の確立に関 する研究	見目 智紀	整形外科	800,000	補 委	文部科学 省
経皮的脊椎圧迫骨折治 癒促進シーズの探索	齋藤 亘	整形外科	1,000,000	補 委	文部科学 省
高密度コラーゲン材料と 多血小板血漿を併用し た新たな椎体固定法の開 発	井上 玄	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学 省
				補 委	
				補 委	

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第III相臨床研究	伊東恭悟	久留米大学	1,000,000	補	厚労省
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	原 純一	大阪市立総合医療センター	300,000	補	厚労省
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
頭頸部表在がんに対する診断・治療法の確立に関する研究—頭頸部表在癌全国登録調査—	岡本牧人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650万	委	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	岡本牧人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	80万	補	厚生労働省
喉頭機能温存手術 SCL-CHEP：音声・嚥下機能改善に向けた基礎研究と臨床応用	中山明仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	80万	補	文部科学省
ICG蛍光法を用いた頭頸部癌におけるセンチネルリンパ節同定の有効性に関する研究	宮本俊輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	70万	補	文部科学省
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
周産期医療従事者の確保に資する方策に関する研究	海野 信也	産婦人科	1,109,000	補委 神奈川県
持続可能な周産期医療体制の構築のための研究 (H26-特別-指定-032)	海野 信也	産婦人科	2,925,000	補委 厚生労働科学研究
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
「分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発」	恩田貴志	婦人科	1,500,000	補 ⑤委	文部科学省
早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究	恩田貴志	婦人科	1,500,000	補 ⑤委	厚生労働省
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的実験	恩田貴志	婦人科	1,500,000	補 ⑤委	厚生労働省
高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究	恩田貴志	婦人科	400,000	補 ⑤委	厚生労働省
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
複雑型先天性心疾患術後遠隔期のエネルギー損失:心臓MRIと分子生物学的検証	北川 篤史	小児科	400,000円	補委 公益財団法人 森永奉仕会
単心室循環確立に伴う遺伝子発現変化:マイクロアレイ法による遺伝子プロファイル解析	本田 崇	小児科	3,770,000円	補委 平成26年度厚生労働科学研究費補助金若手研究(B)
川崎病病因解明のための多施設共同研究:川崎病における自然免疫制御機構の解析	緒方 昌平	小児科	3,800,000円	補委 平成27年度厚生労働科学研究費補助金若手研究(B)
複雑型先天性心疾患術後遠隔期のエネルギー損失:心臓MRIと分子生物学的検証	北川 篤史	小児科	500,000円	補委 川野正彦記念公益財団法人 川野小児医学奨学財団
川崎病における自然免疫制御機構の解析	江波戸 孝輔	小児科	460,000円	補委 株式会社 SRL
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計5

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
遺伝情報・検査・医療の適正運用のための法制化に向けた遺伝医療政策研究	高田史男(主任研究者)、福嶋義光、小西郁生他	北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座、信州大学医学部遺伝医学講座、京都大学大学院医学研究科婦人科学・産科学	6,175,000円	補	厚生労働省
わが国における遺伝性乳癌卵巣癌の臨床遺伝学的特徴の解明と遺伝子情報を用いた生命予後の改善に関する研究	新井正美、高田史男(研究分担者)他	がん研有明病院遺伝診療部、北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座	9,100,000円	補	厚生労働省
出生前診断における遺伝カウンセリングの実施体制及び支援体制のあり方に関する研究	小西郁生、高田史男(研究分担者)他	京都大学大学院医学研究科婦人科学・産科学、北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座	4,500,000	補	厚生労働省
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
精巢特異的発現を示すREV7の生殖細胞生存・増殖・分化における重要性の検討	村雲芳樹	病院病理部	1,820,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎バイオマーカーと治療標的としてのOLFM4の役割と分子基盤の解明	吉田 功	病院病理部	410万円(H24-H27年・基金)	補委	日本学術振興会
胆汁ショットガン・プロテオミクス解析による慢性胆嚢炎からの胆嚢発癌経路の解明	柳澤信之	病院病理部	2,470,000	補委	日本学術振興会
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Higuchi K, Tanabe S, Shimada K, Hosaka H, Sasaki E, Nakayama N, Takeda Y, Moriwaki T, Amagai K, Sekikawa T, Sakuyama T, Kanda T, Sasaki T, Azuma M, Takahashi F, Takeuchi M, Koizumi W; Tokyo Cooperative Oncology Group, Tokyo, Japan.	消化器内科	Biweekly irinotecan plus cisplatin versus irinotecan alone as second-line treatment for advanced gastric cancer: A randomised phase III trial (TCOG GI-0801/BIRIP trial).	Eur J Cancer. 2014 May;50(8):1437-45.
2	Iwai T, Kida M, Yamauchi H, Imaizumi H, Koizumi W.	消化器内科	Short-type and conventional single-balloon enteroscopes for endoscopic retrograde cholangiopancreatography in patients with surgically altered anatomy: Single-center experience.	Dig Endosc. 2014 Apr;26 Suppl 2:156-63.
3	Nakazawa T, Hidaka H, Shibuya A, Okuwaki Y, Tanaka Y, Takada J, Minamino T, Watanabe M, Kokubu S, Koizumi W.	消化器内科	Overall survival in response to sorafenib versus radiotherapy in unresectable hepatocellular carcinoma with major portal vein tumor thrombosis: propensity score analysis.	BMC Gastroenterol. 2014 May 3;14:84. doi: 10.1186/1471-230X-14-84.
4	Watanabe A, Hidaka H, Minamino T, Tanaka Y, Takada J, Okuwaki Y, Nakazawa T, Shibuya A, Nakatani K, Ohbu M, Koizumi W.	消化器内科	A Case of Graves' Disease Complicated With Thyroid Storm and Acute Hepatic Failure.	J Med Cases, 2014 May;5(5):273-278;
5	Masutani H, Okuwaki K, Kida M, Yamauchi H, Imaizumi H, Miyazawa S, Iwai T, Takezawa M, Koizumi W.	消化器内科	First case of IgG4-related sclerosing cholangitis associated with autoimmune hemolytic anemia.	World J Gastroenterol. 2014 Jul 14;20(26):8740-4.
6	Higuchi K, Komori S, Tanabe S, Katada C, Azuma M, Ishiyama H, Sasaki T, Ishido K, Katada N, Hayakawa K, Koizumi W; Kitasato Digestive Disease and Oncology Group.	消化器内科	Definitive Chemoradiation Therapy With Docetaxel, Cisplatin, and 5-Fluorouracil (DCF-R) in Advanced Esophageal Cancer: A Phase 2 Trial (KDOG 0501-P2).	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2014 Jul 15;89(4):872-9.
7	Katada C, Muto M, Tanabe S, Higuchi K, Sasaki T, Azuma M, Ishido K, Katada N, Sakuramoto S, Yamashita K, Masaki T, Nakayama M, Okamoto M, Koizumi W.	消化器内科	Factors associated with the presence of multiple Lugol-voiding lesions in patients with esophageal squamous-cell carcinoma.	Dis Esophagus. 2014 Jul;27(5):457-62.

8	Naruke A, Azuma M, Takeuchi A, Saegusa M, Koizumi W.	消化器内科	Comparison of depth-specific gene expression levels in primary tumors in advanced gastric cancer.	The Kitasato Medical Journal. 2014, 44(2):125-133.
9	Kobayashi K, Hirai F, Naganuma M, Watanabe K, Ando T, Nakase H, Matsuoka K, Watanabe M.	消化器内科(新世紀医療)	A randomized clinical trial of mesalazine suppository: the usefulness and problems of central review of evaluations of colonic mucosal findings.	J Crohns Colitis. 2014 Nov 1;8(11):1444-53.
10	Watanabe M, Shibuya A, Minamino T, Murano J, Matsunaga K, Fujii K, Ogasawara G, Irie T, Woodhams R, Koizumi W.	消化器内科	Benefits and problems of transarterial therapy in patients with hepatocellular carcinoma and chronic kidney disease.	J Vasc Interv Radiol. 2014 Dec;25(12):1947-55.
11	Naruke A, Azuma M, Takeuchi A, Ishido K, Katada C, Sasaki T, Higuchi K, Tanabe S, Saegusa M, Koizumi W.	消化器内科	Comparison of site-specific gene expression levels in primary tumors and synchronous lymph node metastases in advanced gastric cancer.	Gastric Cancer. 2015 Apr;18(2):262-70.
12	Imaizumi H, Kida M, Okuwaki K, Kaneko T, Yamauchi H, Miyazawa S, Iwai T, Takezawa M, Kikuchi H, Watanabe M, Koizumi W.	消化器内科	Diagnostic Yield of Endoscopic Ultrasound-guided Fine Needle Aspiration with an Aspiration Needle and a Core Biopsy Needle.	J Interv Gastroenterol. 2014, 4:3,81-86.
13	Hidaka H, Iwakiri Y.	消化器内科	Hepatic congestion leads to fibrosis: Findings in a newly developed murine model.	Hepatology. 2015 Feb;61(2):428-30.
14	Yamauchi H, Kida M, Okuwaki K, Miyazawa S, Iwai T, Tokunaga S, Takezawa M, Imaizumi H, Koizumi W.	消化器内科	Passive-bending, short-type single-balloon enteroscope for endoscopic retrograde cholangiopancreatography in Roux-en-Y anastomosis patients.	World J Gastroenterol. 2015 Feb 7;21(5):1546-53.
15	Koizumi W, Morita S, Sakata Y.	消化器内科	A randomized Phase III trial of weekly or 3-weekly doses of nab-paclitaxel versus weekly doses of Cremophor-based paclitaxel in patients with previously treated advanced gastric cancer (ABSOLUTE Trial).	Jpn J Clin Oncol. 2015 Mar;45(3):303-6.

16	Kobayashi K, Kawagishi K, Ooka S, Yokoyama K, Sada M, Koizumi W:	消化器内科(新世紀医療)	Clinical usefulness of endoscopic ultrasonography for the evaluation of ulcerative colitis-associated tumors.	World J Gastroenterol. 2015 March 7; 21(9): 2693-2699.
17	Miyata E, Yamauchi H, Kida M, Okuwaki K, Miyazawa S, Iwai T, Koizumi W.	消化器内科	Successful endoscopic dilation of severe bilioenteric strictures with a wire-guided diathermic dilator and short-type single-balloon enteroscope.	Endoscopy. 2015;47 Suppl 1:E94-5.
18	Mukae M, Kobayashi K, Sada M, Yokoyama K, Koizumi W, Saegusa M.	消化器内科	Diagnostic performance of EUS for evaluating the invasion depth of early colorectal cancers.	Gastrointest Endosc. 2015 Mar;81(3):682-90.
19	Furue Y, Hidaka H, Fujii K, Matsunaga K, Koizumi W.	消化器内科	Intraoperative bleeding after balloon-occluded retrograde transvenous obliteration: a case report.	Journal of Medical Case Reports 2015, 9:62.
20	Yamauchi H, Kida M, Miyazawa S, Okuwaki K, Imaizumi H, Koizumi W.	消化器内科	Electrohydraulic lithotripsy under peroral direct cholangioscopy using short-type single-balloon enteroscope for large common bile duct stone in patients with Roux-en-Y gastrectomy.	Endoscopy. 2015;47 Suppl 1:E240-1

計 20

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限り)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kurokawa S, Niwano S, Niwano H, Ishikawa S, Murakami M, Kosukegawa T, Masaki Y, Tamaki H, Toda T, Noda Y, Shimizu T, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Cardiomyocyte-derived Mitochondrial Superoxide Causes Myocardial Electrical Remodeling by Down-regulating Potassium Channels and Related Molecules	Circ J 2014; 78: 1950-59.
2	Kisihara J, Niwano S, Niwano H, Aoyama Y, Satoh A, Oikawa J, Kiryu M, Fukaya H, Masaki Y, Tamaki H, Izumi T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Effect of carvedilol on atrial remodeling in canine model of atrial fibrillation	Cardiovasc Diagn Ther 2014; 4: 28-35.
3	Niwano S	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Role of Endothelial Dysfunction in Thrombus Formation in the Left Atrium. Protective Role of Nitric Oxide Synthesis in the Surface of Atrium.	Circ J 2014; 78: 1841-2
4	Kaneko Y, Horie M, Niwano S, Kusano K, Takatsuki S, Kurita T, Mitsuhashi T, Nakajima T, Irie T, Hasegawa K, Noda T, Kamakura S, Aizawa Y, Yasuoka R, Torigoe K, Suzuki H, Ohe T, Shimizu A, Fukuda K, Kurabayashi M, Aizawa Y.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine ほか 他施設	Electrical Storm in Patients with Brugada syndrome is Associated with Early Repolarization	Circ Arrhythm 2014; 7: 1122-1128.
5	Yoshizawa T, Niwano S, Niwano H, Igarashi T, Fujiishi T, Ishizue N, Oikawa J, Satoh A, Kurokawa S, Hatakeyama Y, Fukaya H, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Prediction of new onset atrial fibrillation through P wave analysis in 12 lead ECG.	Int Heart J 2014;55(5):422-7.
6	Watanabe E, Tanabe T, Osaka M, Chishaki A, Takase B, Niwano S, Watanabe I, Sugi K, Katoh T, Takayanagi K, Mawatari K, Horie M, Okumura K, Inoue H, Atarashi H, Yamaguchi I, Nagasawa S, Moroe K, Kodama I, Sugimoto T, Aizawa Y.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine ほか 他施設	Sudden cardiac arrest recorded during Holter monitoring: prevalence, antecedent electrical events, and outcomes.	Heart Rhythm. 2014 Aug;11(8):1418-25.
7	Inomata T	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Parathyroid hormone in heart failure. Candidacy for a biomarker or therapeutic target?	Circ J 78(11):2631-2632, 2014.

8	Ikeda Y, Inomata T, Fujita T, Iida Y, Nabeta T, Naruke T, Koitabashi T, Takeuchi I, Kitamura T, Miyaji K, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Morphological changes in mitochondria during mechanical unloading observed on electron microscopy: a case report of a bridge to complete recovery in a patient with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Cardiovasc Pathol. 24:128-131, 2014.
9	Ishii S, Inomata T, Ikeda Y, Nabeta T, Iwamoto M, Watanabe I, Naruke T, Shinagawa H, Koitabashi T, Nishii M, Takeuchi I, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Clinical significance of heart rate during acute decompensated heart failure to predict left ventricular reverse remodeling and prognosis in response to therapies in nonischemic dilated cardiomyopathy.	Heart Vessels 29(1):88-9, 2014.
10	Kinugawa K, Sato N, Inomata T, Shimakawa T, Iwatake N, Mizuguchi K.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine ほか 他施設	Efficacy and safety of tolvaptan in heart failure patients with volume overload.	Circ J 78(4):844-52, 2014.
11	Nabeta T, Inomata T, Iida Y, Ikeda Y, Iwamoto M, Ishii S, Sato T, Watanabe I, Naruke T, Shinagawa H, Koitabashi T, Takeuchi I, Nishii M, Inoue Y, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Baseline cardiac magnetic resonance imaging versus baseline endomyocardial biopsy for the prediction of left ventricular reverse remodeling and prognosis in response to therapy in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Heart Vessels ;29(6):784-92, 2014.
12	Ikeda Y, Inomata T*, Fujita T, Iida Y, Nabeta T, Naruke T, Koitabashi T, Takeuchi I, Kitamura T, Miyaji K, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Morphological changes in mitochondria during mechanical unloading observed on electron microscopy: a case report of a bridge to complete recovery in a patient with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Cardiovasc Pathol. 24:128-131, 2014.
13	Hashikata T, Tojo T, Namba S, Kitasato L, Hashimoto T, Kameda R, Shimohama T, Yamaoka-Tojo M, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Neointimal coverage of zotarolimus-eluting stent at 1, 2, and 3 months' follow-up: an optical coherence tomography study.	Heart Vessels. 2014 Nov 2.
14	Yamaoka-Tojo M	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Molecular mechanisms of cardiovascular protection by an effective cardiac rehabilitation program: what should we seek for next?	Circ J. 2014; 78(11): 2624-6.
15	Kamiya K, Mezzani A, Hotta K, Shimizu R, Kamekawa D, Noda C, Yamaoka-Tojo M, Matsunaga A, Masuda T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Quadriceps isometric strength as a predictor of exercise capacity in coronary artery disease patients.	Eur J Prev Cardiol. 2014; 21(10): 1285-91.
16	Yamamoto S, Matsunaga A, Wang G, Hoshi K, Kamiya K, Noda C, Kimura M, Yamaoka-Tojo M, Masuda T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Effect of balance training on walking speed and cardiac events in elderly patients with ischemic heart disease.	Int Hear J. 2014; 55(5): 397-403.
17	Kitasato L, Yamaoka-Tojo M, Hashikata T, Ishii S, Kameda R, Shimohama T, Tojo T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Factor Xa in mouse fibroblasts may induce fibrosis more than thrombin.	Int Heart J. 2014; 55(4): 357-61.
~				
70				
~				

計17

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	竹内康雄	北里大学医学部腎臓内科学	Curative haploidentical BMT in a murine model of X-linked chronic granulomatous disease.	Int J Hematol.
2	竹内康雄	北里大学医学部腎臓内科学	A possible clue for the production of anti-glomerular basement membrane antibody associated with ureteral obstruction and hydronephrosis.	Case Rep Nephrol Dial.
3	内藤正吉	腎臓内科	The glomerular parietal epithelial cell's responses are influenced by SM22 alpha levels.	BMC Nephrol. 6: 174, 2014
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 3

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Aya Kawanami, Makiko Nagai, Tomoko Nihira, kazutoshi Nishiyama	Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine	Clinicopathological examinaition of optineurin-immunoreactive inclusions in with sporadic ALS	The Kitasato Medical Journal Mar.2015; 45(1): 21-28
2	Iizuka T, Tominaga N, Kaneko J, Sato M, Akutsu T, Hamada J, Sakai F, Nishiyama K	Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine	Biphasic neurovascular changes in prolonged migraine aura in familial hemiplegic migraine type 2	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2015 Mar;86(3):344-353
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計2

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hirohata S ¹ , Arinuma Y ¹ , Yanagida T ² , Yoshio T ³ .	¹ Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine. ² Department of Internal Medicine, Teikyo University School of Medicine. ³ Division of Rheumatology and Clinical Immunology, Jichi Medical University.	Blood-brain barrier damages and intrathecal synthesis of anti- N-methyl-D-aspartate receptor NR2 antibodies in diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus.	Arthritis Res Ther; 16(2): R77, 2014
2	Hirohata S ¹ , Kasama T ² , Kawahito Y ³ , Takabayashi K ⁴ .	¹ Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine. ² Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Showa University School of Medicine. ³ Inflammation and Immunology, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine. ⁴ Department of Internal Medicine II, Center for Biomedical Science, Chiba University School of Medicine.	Efficacy of anti-ribosomal P protein antibody testing for diagnosis of systemic lupus erythematosus.	Mod Rheumatol; 24(6): 939-44, 2014
3	Toshihiro Tono, Satoko Aihara, Takayuki Hoshiyama, Yoshiyuki Arinuma, Tatsuo Nagai, Shunsei Hirohata	Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine	Effects of TNF inhibitors on human monocytes.	Kitasato Med J; 44: 117-124, 2014.
4	Hirohata S ¹ , Sakuma Y ¹ , Yanagida T ² , Yoshio T ³ .	¹ Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine. ² Department of Internal Medicine, Teikyo University School of Medicine. ³ Division of Rheumatology and Clinical Immunology, Jichi Medical University.	Association of cerebrospinal fluid anti-Sm antibodies with acute confusional state in systemic lupus erythematosus.	Arthritis Res Ther; 16(5): 450, 2014.

5	Y Arinuma ¹ , H Kikuchi ² , T Wada ¹ , T Nagai ¹ , S Tanaka ¹ , H Oba ³ , S Hirohata ¹ .	¹ Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan. ² Department of Internal Medicine, Teikyo University School of Medicine. ³ Department of Radiology, Teikyo University Hospital.	Brain MRI in patients with diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus.	Lupus Sci Med; 1(1): e000050, 2014.
6	Shunsei Hirohata ¹ , Hiroto Kikuchi ² , Tetsuji Sawada ³ , Hiroko Nagafuchi ⁴ , Masataka Kuwana ⁵ , Mitsuhiro Takeno ⁶ , Yoshiaki Ishigatsubo ⁶ .	¹ Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine, ² Department of Internal Medicine, Teikyo University School of Medicine, ³ Department of Internal Medicine 3, Tokyo Medical University, ⁴ Department of Internal Medicine, St. Marianna University School of Medicine, ⁵ Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, ⁶ Department of Internal Medicine and Clinical Immunology, Yokohama City University Graduate School of Medicine.	Retrospective analysis of long-term outcome of chronic progressive neurological manifestations in Behcet's disease.	J Neurol Sci; 349(1-2): 143-148, 2015.
7	Tono T, Aihara S, Hoshiyama T, Arinuma Y, Nagai T, Hirohata S.	Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine.	Effects of anti-IL-6 receptor antibody on human monocytes.	Mod Rheumatol 25: 79-84, 2015.
8				
~				
70				
~				

計 7

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Quanjer PH, Kubota M, <u>Kobayashi H</u> , Omori H, Tatsumi K, Kanazawa M, Stanojevic S, Stocks J, Cole TJ.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Secular Changes in relative leg length confound height-based spirometric reference values.	Chest 147: 792 - 797, 2015
2	Mineshita M, Shikama Y, Nakajima H, Nishihira R, Komatsu S, Kubota M, <u>Kobayashi H</u> , Kokubu F, Shinkai M, Kaneko T, Miyazawa T,	Kitasato University School of Allied Health Sciences	The application of impulse oscillation system for the evaluation of treatment effects in patients with COPD.	Respir Physiol&Neurobiol 202:1-5, 2014.
3	Ema A, Waraya M, Yamashita K, Kokubo K, <u>Kobayashi H</u> , Hoshi K, Shinkai Y, Kawamata H, Nakamura K, Nishimiya H, Katada N, Watanabe M.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Identification of EGFR expression status association with metastatic lymph node density (ND) by expression microarray analysis of advanced gastric cancer.	Cancer Med. 4(1): 90-100, 2014
4	Noda K, Shigemura N, Tanaka Y, Jay Bhama, Jonathan D Cunha, <u>Kobayashi H</u> , Luketich JD,	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Bermudez CA. Hydrogen Preconditioning During EX Vivo Lung Perfusion Improves the Quality of Lung Grafts in Rats.	Transplantation.98(5):499-506, 2014.
5	Mineshita M. Shikama Y. Nakajima H. Nishihira R. Komatsu S. Kubota M. <u>Kobayashi H</u> . Kokubu F. Shinkai M. Kaneko T. Miyazawa T.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	The application of impulse oscillation system for the evaluation of treatment effects in patients with COPD.	Respiratory Physiology & Neurobiology 202:1-5,2014.
6	Akasaka K, Tanaka T, Maruyama T, Kitamura N, Hashimoto A, Ito Y, Watanabe H, Wakayama T, Arai T, Hayashi M, Moriyama H, Uchida K, Ohkouchi S, Tazawa R, Takada T, Yamaguchi E, Ichihata T, Hirose M, Arai T, Inoue Y, <u>Kobayashi H</u> , Nakata K.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	A mathematical model to predict protein wash out kinetics during whole-lung lavage in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis,	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol 308: L105-L117, 2015.
7	Kubota M, <u>Kobayashi H</u> , Quanjer PH, Omori H, Tatsumi K, Kanazawa M.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Reference values for spirometry including vital capacity in Japanese adults using the LMS method in comparison to previous values.	Respiratory Investigation 52:242-250, 2014.
8	Ogihara Y, Ogata S, Nomoto K, Ebato T, Sato K, Kokubo K, <u>Kobayashi H</u> , Ishii M.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Transcriptional regulation by infliximab therapy in Kawasaki disease patients with immunoglobulin resistance.	Pediatr Res. 76(3): 287-93, 2014

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ishiyama H, Satoh T, Kawakami S, Tsumura H, Komori S, Tabata K, Sekiguchi A, Takahashi R, Soda I, Takenaka K, Iwamura M, Hayakawa K.	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine, Department of Urology, Kitasato University School of Medicine,	A Prospective Quasi-Randomized Comparison of Intraoperatively Built Custom-Linked Seeds Versus Loose Seeds for Prostate Brachytherapy	International Journal of Radiation Oncology*Biologys*Physics,2014 Sep 1;90(1):134-9
2	Ishiyama H, Hirayama T, Jhaveri P, Satoh T, Paulino AC, Xu B, Butler EB, Teh BS.	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine, Department of Urology, Kitasato University School of Medicine, Department of Radiation Oncology, The Methodist Hospital, Cancer Center, and Research Institute Department of Genitourinary Medical Oncology, MD Anderson Cancer Center, University of Texas Department of Radiology, Baylor College of Medicine, Houston, TX	Is There an Increase in Genitourinary Toxicity in Patients Treated With Transurethral Resection of the Prostate and Radiotherapy?	American journal of clinical oncology,2014 Jun;37(3):297-304
3	Ishiyama H, Satoh T, Kitano M, Tabata K, Komori S, Ikeda M, Soda I, Kurosaka S, Sekiguchi A, Kimura M, Kawakami S, Iwamura M, Hayakawa K.	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine, Department of Urology, Kitasato University School of Medicine, Department of Radiology, National Hospital Organization Sagami National Hospital ,	High-dose-rate brachytherapy and hypofractionated external beam radiotherapy combined with long-term hormonal therapy for high-risk and very high-risk prostate cancer: outcomes after 5-year follow-up.	Journal of Radiation Research,2014 May;55(3):509-17
4	Soda I, Ishiyama H, Ono S, Takenaka K, Arai M, Arai T, Iwase H, Sekiguchi A, Kawakami S, Komori S, Onda T, Hayakawa K	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine, Department of Gynecology, Kitasato University School of Medicine,	Assessment of transposed ovarian movement: how much of a safety margin should be added during pelvic radiotherapy?	Journal of radiation research,2015 Mar;56(2):354-9
5	Kawakami S, Ishiyama H, Terazaki T, Soda I, Satoh T, Kitano M, Kurosaka S, Sekiguchi A, Komori S, Iwamura M, Hayakawa K	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine, Department of Urology, Kitasato University School of Medicine, Division of Radiation Oncology, Department of Urology,Kitasato University Hospital	Catheter displacement prior to the delivery of high-dose-rate brachytherapy in the treatment of prostate cancer patients	Journal of contemporary brachytherapy,2014 Jun; 6(2): 161-166
6	Ishiyama H, Satoh T, Sekiguchi A, Tabata K, Komori S, Tsumura H, Kawakami S, Soda I, Takenaka K, Iwamura M, Hayakawa K	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine, Department of Urology, Kitasato University School of Medicine,	Comparison of three different techniques of low-dose-rate seed implantation for prostate cancer	Journal of contemporary brachytherapy,2015 Feb; 7(1): 3-9

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)	Arterial spin-labeling evaluation of cerebrovascular reactivity to acetazolamide in healthy subjects.	AJNR Am J Neuroradiol. 2014;35(6):1111-6.
2	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部、神経内科)	An improved method for estimating the heart-to-mediastinum ratio from cardiac sympathetic nerve imaging with low-energy high-resolution collimators.	J Nucl Cardiol. 2014;21(3):614-21.
3	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)、GEヘルスケア	Optimal techniques for magnetic resonance imaging of the liver using a respiratory navigator-gated three-dimensional spoiled	Magn Reson Imaging. 2014;32(8):975-80.
4	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、泌尿器科、放射線部、放射線治療科)	Phase IIa clinical trial of trans-1-amino-3- ¹⁸ F-fluoro-cyclobutane carboxylic acid in metastatic prostate cancer	Asia Oceania J Nucl Med Biol 2014;2(2):87-94.
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計4

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	菊池史郎	外科	A preliminary study on pre-operative tumor volumetry measured by three-dimensional computer tomography in gastric cancer.	Hepato-gastroenterology
2	山下継史	外科	Multimodality Treatment and Prognosis in Esophageal Squamous Cell Carcinoma Requiring Esophagectomy.	Hepato-gastroenterology
3	山下継史	外科	Preoperative administration of polysaccharide Kureha and reduced plasma transforming growth factor- β in patients with advanced gastric cancer: A randomized clinical trial.	Molecular and clinical oncology
4	山下継史	外科	Detection of methylated CDO1 in plasma of colorectal cancer; a PCR study.	Public Library of Science one
5	山下継史	外科	Survival outcome of Borrmann type IV gastric cancer potentially improved by multimodality treatment.	Anticancer research
6	中村隆俊	外科	Clinical usefulness of laparoscopic surgery for clinical stage 0/I cancer in the rectum: a single-center experience in 137 patients.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech
7	中村隆俊	外科	Neoadjuvant chemoradiation therapy using concurrent S-1 and irinotecan in rectal cancer: impact on long-term clinical outcomes and prognostic factors.	International journal of radiation oncology, biology, physics
8	細田 桂	外科	Impact of lower mediastinal lymphadenectomy for the treatment of esophagogastric junction carcinoma.	Anticancer research
9	細田 桂	外科	Benefit of neoadjuvant chemotherapy for Siewert type II esophagogastric junction adenocarcinoma.	Anticancer research
10	細田 桂	外科	Preoperative tumor size is a critical prognostic factor for patients with Borrmann type III gastric cancer.	Surgery today
11	中村和徳	外科	Aberrant methylation of GCNT2 is tightly related to lymph node metastasis of primary CRC.	Anticancer research
12	江間 玲	外科	Immunohistochemical analysis of RTKs expression identified HER3 as a prognostic indicator of gastric cancer.	Cancer science
13	江間 玲	外科	Identification of EGFR expression status association with metastatic lymph node density (ND) by expression microarray analysis of advanced gastric cancer.	Cancer medicine

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	菊池真理子	北里大学病院 乳腺甲状腺外科	The Usefulness of MRI of Microcalcification Lesions to Determine the Indication for Stereotactic Mammotome Biopsy.	ANTICANCER RESEARCH 34(11):6749-53, 2014 Nov.
2	仙石紀彦	北里大学病院 乳腺甲状腺外科	The Safety of Concentrated Trastuzumab in 100 ml of Saline Solution for Administration to Patients with HER2-Positive Breast Cancer: A Phase 1 Study	Chemotherapy 60(1):1-6. 2014 Oct.
3	谷野裕一	北里大学病院 乳腺甲状腺外科	Prognostic significance of Ki-67 in chemotherapy-naive breast cancer patients with 10-year follow-up.	ANTICANCER RESEARCH 34(1):259-68. 2014 Jan.
4	加藤弘	北里大学病院 乳腺甲状腺外科	CG100649, a novel COX-2 inhibitor, inhibits colorectal adenoma and carcinoma growth in mouse models.	Invest New Drugs 32(6):1105-12 2014Dec
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 4

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				

～				
---	--	--	--	--

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	北村 律	北里大学医学部心臓血管外科	Key success factors for thoracic endovascular aortic repair for non-acute Stanford type B aortic dissection †.	Eur J Cardiothorac Surg. 2014 Sep;46(3):432-7.
2	入澤 友輔	北里大学医学部心臓血管外科	Aortic arch rerouting and OPCAB in a patient with situs inversus totalis.	Int Heart J. 2014;55(3):278-9.
3	岡 徳彦	北里大学医学部心臓血管外科	A case of thrombosis of intra-atrial extracardiac conduit and left pulmonary artery due to infective endocarditis after modified Fontan operation.	Int Heart J. 2014;55(4):377-8.
4	小山 紗千	北里大学医学部心臓血管外科	Optimal bypass graft design for left anterior descending and diagonal territory in multivessel coronary disease.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2014 ;19(3):406-13.
5	中島 光貴	北里大学医学部心臓血管外科	Pulmonary annulus growth after the modified Blalock-Taussig shunt in tetralogy of Fallot.	Ann Thorac Surg. 2014;98(3):934-40.
6	荒記 春奈	北里大学医学部心臓血管外科	Elephant trunk in a small-calibre true lumen for chronic aortic dissection: cause of haemolytic anaemia?	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2014 ;19(6):1065-7.
7	入澤 友輔	北里大学医学部心臓血管外科	Aortic regurgitation due to fibrous strand rupture in the fenestrated left coronary cusp of the tricuspid aortic valveInt.	Int Heart J. 2014;55(6):550-1.
8	岡 徳彦	北里大学医学部心臓血管外科	Increased systemic cardiac output improves arterial oxygen saturation in bidirectional cavopulmonary shunt.	Heart Vessels. 2015 ;30(1):56-60.
9	北村 律	北里大学医学部心臓血管外科	Seventeen-month-long paracorporeal biventricular mechanical support as a bridge to transplantation for severe dilated cardiomyopathy.	J Artif Organs. 2015;18(1):92-4.
10	鍋田 健	北里大学医学部循環器内科学	Vortex flow energy loss reflects therapeutic effect in dilated cardiomyopathy.	Eur Heart J. 2015 Mar 14;36(11):637.
11	池田 祐毅	北里大学医学部循環器内科学	Morphological changes in mitochondria during mechanical unloading observed on electron microscopy: a case report of a bridge to complete recovery in a patient with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Cardiovasc Pathol. 2015 Mar-Apr;24(2):128-31.
~				

計 11

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Matsui Y	呼吸器外科	The role of vascular endothelial growth factor receptor-1 signaling in compensatory contralateral lung growth following unilateral pneumonectomy.	Lab Invest.95(5):456-68
2	Nakashima H	呼吸器外科	Prevalent and up-regulated vimentin expression in micropapillary components of lung adenocarcinomas and its adverse prognostic significance.	Pathol Int. 65:183-192.
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Gen Inoue	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Risk Factors for L5-S1 Disk Height Reduction After Lumbar Posterolateral Floating Fusion Surgery	J Spinal Disord Tech 2014;27:187-192
2	Kensuke Fukushima	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Prevalence of radiographic findings of femoroacetabular impingement in the Japanese population	Journal of Orthopaedic Surgery and Research 2014;9:25
3	Gen Inoue	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Teriparatide increases the insertional torque of pedicle screws during fusion surgery in patients with postmenopausal osteoporosis	J Neurosurg Spine 2014;21:425-431
4	Masaki Ueno	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Acceleration of bone union after structural bone grafts with a collagen-binding basic fibroblast growth factor anchored-collagen sheet for critical-size bone defects	Biomed. Mater. 9(2014)035014
5	Wataru Saito	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Acceleration of bone formation during fracture healing by injectable collagen powder and human basic fibroblast growth factor containing a collagen-binding domain from Clostridium histolyticum collagenase.	J Biomed Mater Res A. 2014;102(9):3049-55
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計5

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				

3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	中原邦晶	北里大学医学部脳神経外科・同形成外科	Relaxed pericranial flap for distraction osteogenesis to treat craniosynostosis: a technique for wound reinforcement-technical note	Childs Nerv Syst 30(7):1283-86, 2014
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計1

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	眞野 唯	北里大学医学部脳神経外科、東北大学医学部脳神経外科、同病理	Cavernous malformation of the optic pathway mimicking optic glioma: a case report	Childs Nerv Syst, 30(10):1753-8, 2014
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	浅川 賢	医療衛生学部	Correlation between disc damage likelihood scale with stereoscopic fundus camera and visual field index of Humphrey field analyzer in glaucomatous eyes.	The Journal of Ophthalmic Photography. 37(2): 67-70, 2015
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 1

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	中山明仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	linical Outcomes of 849 Laryngeal Cancers Treated in the Past 40 Years: Are We Succeeding?	Jpn J Clin Oncol.
2	中山明仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Salvage supracricoid laryngectomy after failed of radiation therapy and partial laryngectomy	J Laryngol Otol
3	長沼英明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Effects of arginine vasopressin on auditory brainstem response and cochlear morphology in rats	Auris Nasus Larynx
4	臼井大祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	An immunohistochemical study of the nasal mucosa after trichloroacetic acid treatment for allergic rhiniitis	Kitasato Journal
5	那須野智光	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Effect of a poly(ADP-ribose)polymerase-1 inhibitor against esophageal squamous cell carcinoma cell lines	Japanese Cancer Association
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計5

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院)
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ken-ichi Tabata,	泌尿器科	Nestin Is an Independent Predictor of Cancer-Specific Survival after Radical Cystectomy in Patients with Urothelial Carcinoma of the Bladder	PLOS ONE
2	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科	Clinical Value of Dividing False Positive Urine Cytology Findings into Three Categories: Atypical, Indeterminate, and Suspicious of Malignancy	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention
3	Kazumasa MATSUMOTO	泌尿器科	Loss of periplakin expression is associated with pathological stage and cancerspecific survival in patients with urothelial carcinoma of the urinary bladder	Biomedical Research (Tokyo)
4	TETSUO FUJITA	泌尿器科	Leukopenia as a Biomarker of Sunitinib Outcome in Advanced Renal Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH
5	Masaomi Ikeda,	泌尿器科	Comparison of Radical Cystectomy and Chemoradiotherapy in Patients with Locally Advanced Bladder Cancer	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention
6	Daisuke Ishii,	泌尿器科	Novel CD8 T Cell Alloreactivities in CCR5-Deficients Recipients of Calss II MHC Disparate Kidney Grafts	JOURNAL OF IMMUNOLOGY
7	Kazumasa Matsumoto,	泌尿器科	Serum Periplakin as a Potential Biomarker for Urothelial Carcinoma of the Urinary Bladder	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention
8	Morihiro NISHI	泌尿器科	Serum expression of S100A6 is a potential detection marker in patients with urothelial carcinoma in the urinary bladder	BIOMEDICAL RESEARCH-TOKYO
9	Takefumi Satoh	泌尿器科	A Phase 2 Study of Abiraterone Acetate in Japanese Men with Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer Who Had Received Docetaxel-based Chemotherapy	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY
10	HIDEHARU BESSHO	泌尿器科	Inhibition of Placental Growth Factor in Renal Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH
11	Hideyasu Tsumura	泌尿器科	High Expression Level of Preoperative Serum Uroplakin III is Associated with Biologically Aggressive Bladder Cancer	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention
12	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科	Gemcitabine Plus Nedaplatin as Salvage Therapy is a Favorable Option for Patients with Progressive Metastatic Urothelial Carcinoma After Two Lines of Chemotherapy	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention
13				
~				

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	岩瀬春子 (Haruko Iwase)	がん研有明病院婦人科 北里大学医学部産婦人科	Clinical features of long-term survivors of recurrent epithelial ovarian cancer	Int J Clin Oncol 20(1): 143-9, 2015
2	田雑有紀 (Yuki Tazo)	北里大学医学部病理 北里大学医学部産婦人科	Bifunctional roles of survivin-ΔEx3 and survivin-2B for susceptibility to apoptosis in endometrial carcinomas	J Cancer Res Clin Oncol 140(12): 2027-37, 2014
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	釘持 学	小児科	Changes in mortality rate of extremely preterm infants born at 22-25weeks of gestation in KITASATO University Hospital.	The Kitasato Medical J2014;44:69-73
2	扇原 義人	小児科	Transcriptional regulation by infliximab therapy in Kawasaki disease patients with immunoglobulin resistance	Prdiatr Res 2014; 76(3)287-293
3	峰尾 恵梨	小児科	Right ventricular failure with high echoic ventricular wall change after foetoscopic laser photocoagulation: a case report of a donor in twin-to-twin transfusion syndrome.	Cardiology in the young2014;19:1-3
4	北川 篤史	小児科	Clinical Utility of the Plasma Brain Natriuretic Peptide Level Monitoring in Monitoring Tetralogy of Fallot Patients over the Long Term After Initial Intracardiac Repair: Considerations for Pulmonary Valve Replacement.	Pediatric Cardiology 36:752-758.2015
5	岩崎 俊之	小児科	The efficacy of levetiracetam for seizures and blood levels in children.	Brain &Development 2015 in press

計5件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hashikata T,1 Tojo T,1 Namba S,1 Kitasato L,1 Hashimoto T,1 Kameda R,1 Shimohama T,1 Yamaoka-Tojo M,1 Takada F,2 Ako J.1	1Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine, 2Department of Medical Genetics, Kitasato University Graduate School of Medical Sciences	Deficiency of creatine kinase in a ST- segment elevation myocardial infarction patient with Kartagener syndrome.	Int J Cardiol. 182:31-33. 2015.
2	Nakashima S,1 Ohishi A,1 Takada F,2 Kawamura H,3 Igarashi M,4 and Fukami M,4 Ogata T.5	1Department of Pediatrics, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan. 2Department of Medical Genetics, Kitasato University Graduate School of Medical Sciences, Sagamihara, Japan. 3Department of Urology, Shizuoka Children's Hospital, Shizuoka, Japan. 4Department of Molecular Endocrinology, National Research Institute for Child Health and Development, Tokyo, Japan.	Clinical and molecular studies in four patients with SRY-positive 46,XX testicular disorders of sex development: implications for variable sex development and genomic rearrangements.	J Hum Genet. 56(2):110-124. 2014.

3	Maeda T1, Higashimoto K2, Jozaki K2, Yatsuki H2, Nakabayashi K3, Makita Y4, Tonoki H5, Okamoto N6, <u>Takada F7</u> , Ohashi H8, Migita M9, Kosaki R10, Matsubara K11, Ogata T12, Matsuo M13, Hamasaki Y13, Ohtsuka Y1, Nishioka K2, Joh K2, Mukai T14, Hata K3, Soejima H2.	11) Division of Molecular Genetics and Epigenetics, Department of Biomolecular Sciences, Faculty of Medicine, Saga University, Saga, Japan [2] Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Saga University, Saga, Japan. 2) Division of Molecular Genetics and Epigenetics, Department of Biomolecular Sciences, Faculty of Medicine, Saga University, Saga, Japan. 3) Department of Maternal-Fetal Biology, National Research Institute for Child Health and Development, Tokyo, Japan. 4) Education Center, Asahikawa Medical University, Asahikawa, Japan. 5) Department of Pediatrics, Maternal, Perinatal, and Child Medical Center, Tenshi Hospital, Sapporo, Japan. 6) Department of Medical Genetics, Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, Izumi, Japan. 7) Department of Medical Genetics, Kitasato University Graduate School of Medical Sciences, Kanagawa, Japan. 8) Division of Medical Genetics, Saitama Children's Medical Center, Saitama, Japan. 9) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan. 10) Division of Medical Genetics, National Center for Child Health and Development, Tokyo, Japan. 11) Department of Molecular Endocrinology, National Research Institute for Child Health and Development, Tokyo, Japan. 12) Department of Pediatrics, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan. 13) Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Saga University, Saga, Japan. 14) Nishikyushu University, Saga, Japan.	Comprehensive and quantitative multilocus methylation analysis reveals the susceptibility of specific imprinted differentially methylated regions to aberrant methylation in Beckwith-Wiedemann syndrome with epimutations.	Genet Med. 16(12):903-12. 2014.
4	Narumi Y,1,2 Nishina S,1 Tokimitsu M1, Aoki Y, Kosaki R, Wakui K,1 Azuma N,1 Murata T,1 <u>Takada F,2</u> Fukushima Y,1	1) Department of Medical Genetics, Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan; Department of Medical Genetics, Kitasato University Graduate School of Medical Sciences, Sagami-hara, Japan.	Identification of a novel missense mutation of MAF in a Japanese family with congenital cataract by whole exome sequencing: A clinical report and review of literature.	Am J Med Genet A. 164(5):1272-6. 2014.
5				
6				
7				
8				
9				
~				
70				
~				

計4

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	福嶋義光, 高田史男	信州大学医学部遺伝医学講座、北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座	遺伝カウンセリングと診療報酬評価	日本医師会雑誌, 143(6):192-196, 2014.
2	高田史男	北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座	出生前診断を考える. 日本医学会の対応・遺伝子解析の市場化	日本医師会雑誌, 143(6):192-196, 2014.
3	高田史男	北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座	遺伝子検査ビジネスの現状と問題点	医学のあゆみ, 250(5):441-446, 2014.
4				
5				
~				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	高橋博之	北里大学医学部病理学	A combination of nuclear β -catenin and atypical scores as useful diagnostic markers for borderline malignancy of	Histopathology 2014;65(6):828-38
2	高橋博之	北里大学医学部病理学	Frequent β -catenin gene mutations in atypical polypoid adenomyoma of the uterus.	Human pathology 2014;45(1):33-40.
3	柳澤信之	北里大学医学部病理学	High expression of L-type amino acid transporter 1 as a prognostic marker in bile duct adenocarcinomas.	Cancer Med., 3(5):1246-55, 2014.
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計3

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①研究者が、研究申請書及び実験計画書を倫理委員会事務局へ提出。 ②臨床研究指針に基づき委員会にて審議ならび判定の後、臨床研究 機関長が実施の可否を決定する。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容：産官学連携活動に関する北里大学利益相反マネジメント・ポリシーに基づき、利益相反に関する事項を審議する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年6回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容：臨床研究に関する倫理指針の総合解説等	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

北里大学病院は、1033床の病床を有する特定機能病院であり、地域における災害拠点病院、がん診療連携拠点病院として超急性期医療に対応するべく、各医療センターを中心にチーム医療を中心とした最先端の医療を提供している。
初期臨床研修後の病棟医（卒後3～6年）については、各科毎に「後期研修プログラム」を設け、上位者よりきめ細かい指導を受ける体制と、医師としての資質向上のため診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いている。
当院での研修を通じて、幅広い知識と技量を有した専門医を育成し、専門領域に関する継続的な探究心を身につけることを目標とする。

2 研修の実績

研修医の人数	133.1 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
七里 眞義	内分泌代謝内科	教授	34 年	
鎌田 貢壽	腎臓内科	教授	38 年	
東原 正明	血液内科	教授	35 年	
廣畑 俊成	感染症内科	教授	34 年	
小泉 和三郎	消化器内科	教授	34 年	
阿古 潤哉	循環器内科	教授	23 年	
益田 典幸	呼吸器内科	教授	37 年	
西山 和利	神経内科	教授	27 年	
宮岡 等	精神科	教授	33 年	
天羽 康之	皮膚科	教授	18 年	
井上 優介	放射線診断科	教授	25 年	
早川 和重	放射線治療科	教授	36 年	
渡邊 昌彦	外科	教授	35 年	
佐藤 之俊	呼吸器外科	教授	29 年	
宮地 鑑	心臓血管外科	教授	27 年	
隈部 俊宏	脳神経外科	教授	28 年	
高相 晶士	整形外科	教授	25 年	
武田 啓	形成外科・美容外科	准教授	29 年	
岩村 正嗣	泌尿器科	教授	31 年	
岡本 牧人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	39 年	
清水 公也	眼科	教授	38 年	
石井 正浩	小児科	教授	29 年	
恩田 貴志	産科・婦人科	教授	28 年	
岡本 浩嗣	麻酔科	教授	27 年	
浅利 靖	救急科	教授	28 年	
狩野 有作	臨床検査科	准教授	24 年	
村雲 芳樹	病理診断科	教授	26 年	
赤星 透	内科	教授	35 年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>1) 北里腫瘍フォーラム 2) 北里循環器セミナー 3) 北里血管フォーラム</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>1) 年2回 2) 年5回 3) 年2回</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>1) 1回につき60名前後 2) 1回につき100名前後 3) 1回につき80名前後</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 海野 信也
管理担当者氏名	事務部長 熊澤 豊彦

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部 医事課 診療情報管理室 放射線部	初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号(患者番号7桁)を設定。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	人事課	
	閲覧実績	診療情報管理室	
	紹介患者に対する医療提供の実績	トータルサポートセンター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項の各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全推進室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全推進室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全推進室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療の質・安全推進室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療の質・安全推進室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	トータルサポートセンター 総務課 医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染管理室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
	各号及び第九條の二十三条	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長	熊澤 豊彦	
閲覧担当者氏名	総務課長	新藤 直哉	
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧申請を受けたら、事務部長の承認を得て、総務課内にて閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢） 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項 安全管理のための職員への教育研修に関する基本方針 医療安全の確保を目的とした改善のための方策 医療事故発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容：【リスクマネジメント委員会の開催】 医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること 医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること 医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 65 回
・ 研修の主な内容 リスクマネジメント研修会（内部講師、全職員対象） リスクマネージャー研修会（内部講師、リスクマネージャー及び医療安全推進者対象） 各種の医療安全研修会（チーム STEPPS、転倒・転落の防止、一次救命処置、MRI 安全管理他） 新規採用者研修（研修医・コメディカルのオリエンテーション時） 復職医師・中途採用医師の随時研修、看護師のフォローアップ研修、その他	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施 リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成等）	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（4 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専任（6）名 兼任（3）名 ・ 活動の主な内容： リスクマネジメント委員会の運営に関する業務 医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務 医療安全のための職員研修に関する業務 医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務 患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務 医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務 医療訴訟、和解等に関する業務 その他	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容： 制定、改定について：平成19年4月1日制定。平成22年2月24日付、平成23年2月22日付、平成26年2月26日付で一部改定</p> <p>指針の主な内容：院内感染対策に関する基本方針 院内管理体制 院内感染対策のための教育・研修 感染症発生状況報告体制 院内感染発生時の対応 患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容： 院内感染防止のための活動全般と感染症発生時の対応に関すること 院内感染防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 院内感染防止のための情報収集と現場部門への伝達に関すること 院内感染管理に係る各種ワーキング等の活動に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 0 回
<p>・ 研修の主な内容： 新規採用者、復職者、中途採用者への研修 全職員を対象とした医療安全研修会（平成26年度2回実施） 主に医師を対象としたICTセミナー（平成26年度4回実施） 看護補佐、診療アシスタント、ボランティア、奉仕団を対象とした感染対策研修会 院内常駐委託業者を対象とした病院環境衛生研修会 各種防護具等の着脱訓練、フィットテスト 手指衛生に関する研修会 その他</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)</p> <ul style="list-style-type: none">①検査結果速報体制の整備②感染症・食中毒発生報告体制の整備③サーベイランスによる発生状況の把握およびフィードバック④針刺し・粘膜暴露事故発生時の対応体制の整備 <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">①「院内感染防止対策の手引き」の発行②「かんせん情報誌」の発行（平成26年度15回発行）③院内イントラネットに「院内感染防止対策の手引き」「かんせん情報誌」「抗菌薬感受性率一覧」「抗菌薬使用量」「感染症診療のための臨床分離情報」等を掲載し24時間の閲覧情報提供④広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用届出制⑤ICT活動（毎週水曜日：抗菌薬・血液培養陽性者ラウンド、毎週木曜日：環境ラウンド）⑥年間を通じた、感染、病原体、抗菌薬に関するコンサルテーション⑦流行感染症に対する予防・対策	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 10回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全に係る説明（医薬品） 開催日：2014年4月1日（火） 場所：臨床講義室No. 1 9:00～10:00（内15分） 参加者：復職・兼務医師採用者72名 講師：薬剤部 小川 幸雄 （この他5月から2月まで毎月実施）・ 注射剤の配合変化 開催日：2014年6月30日（月） 場所：講義室No. 5 17:30～18:30 参加者：医師、看護師、薬剤師 57名 講師：薬剤部 佐々木 寿子・ 研修医教育セミナー 薬剤投与の基本的注意事項 開催日：2014年7月5日（土） 場所：医学部M31教室 9:00～10:00 参加者：研修医 46名 講師：薬剤部 小松 敏彰・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について ～チューブからの与薬は大丈夫？～ 開催日：2014年8月1日（金） 場所：第一・第二会議室 17:30～19:00 参加者：医師、看護師、栄養士、薬剤師 73名 講師：薬剤部 宮坂 優人・ 注射剤の配合変化2回目 開催日：2014年8月25日（火） 場所：講義室No. 1 17:30～18:30 参加者：医師、看護師、薬剤師37名 講師：薬剤部 佐々木 寿子・ 抗凝固薬の適正使用 開催日：2014年9月16日（火） 場所：臨床講義室No. 2 17:30～18:30 参加者：看護師、薬剤師17名 講師：薬剤部 坂倉 智子・ 「静脈栄養」～ビギナーズ編～ 開催日：2014年10月3日（金） 場所：臨床講義室No. 1, 2 17:30～18:40 参加者：医師、看護師、栄養士、薬剤師62名 講師：薬剤部 中村 優・ 薬剤の副作用 開催日：2014年11月13日（木） 場所：臨床講義室No. 4 17:30～18:30 参加者：看護師、薬剤師 19名 講師：薬剤部 佐々木 寿子	

・ がん疼痛に使用する医療用麻薬の適正使用
開催日：2014年11月18日(火)
場所：臨床講義室No.4 17:30～18:30
参加者：看護師、薬剤師 15名
講師：薬剤部 国分 秀也

・ 抗がん剤の安全使用
開催日：2015年2月23日(月)
場所：臨床講義室No.2 17:30～18:30
参加者：看護師、薬剤師 47名
講師：薬剤部 菅原 充広
看護部 佐藤 久子
高尾 真紀

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有 無)
- ・ 業務の主な内容：

別紙「医薬品安全使用のための業務手順書」目次参照
別紙「医薬品安全使用に関するチェックシート」

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ・ 医療の質・安全推進室との情報交換・情報収集(1回/週)
- ・ 投薬・注射WGにて医薬品の安全使用・管理について検討(1回/月)
- ・ 医薬品適正使用委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し、適正使用に活用している。
- ・ 休業期間を考慮する必要性のある医薬品一覧表を2回/年更新し、配布および端末からの参照ができるようにしている。
- ・ 処方に関する疑義照会およびプレアボイド事例をまとめ、リスクマネジメント委員会等の会議にて報告し、医薬品の安全使用の喚起をおこなっている。(1回/2月)

医薬品安全
使用のための
業務手順書
2015



北里大学病院
Kitasato University Hospital

目 次

第1章 医薬品の採用	1
1-1. 北里大学病院医薬品採用基準	
1-2. 採用医薬品情報の作成・提供	
第2章 医薬品の購入	5
2-1. 医薬品の発注	
2-2. 在庫管理と伝票管理	
第3章 医薬品の管理	6
3-1. 医薬品の管理（保管管理）	
3-2. 医薬品の管理（品質管理）（全病院共通）	
3-3. 規制医薬品（麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、劇薬、特定生物由来製品）の管理	
第4章 医薬品情報の収集・管理・提供	16
4-1. 医薬品情報の収集・管理および専門的評価	
4-2. 医薬品情報の提供	
4-3. 医薬品副作用情報の管理	
第5章 処方	24
5-1. 処方オーダー方法	
5-2. 処方オーダー入力時の注意点	
・ 隔日投与	
・ 粉碎指示	
・ 一包化指示	
・ 簡易懸濁法	
・ 処方発行後（診察終了後）の修正・削除	
5-3. 問い合わせが多い処方の具体例	
5-4. 処方時の注意	
・ 名称が類似した医薬品	
・ 連日投与を行わない医薬品	
・ 休業期間が設定されている経口抗悪性腫瘍薬	
5-5. 注射用抗菌薬投与に関するフローチャート	
5-6. 食物アレルギーと関連のある医薬品一覧	
第6章 指示だし・指示受け	46
6-1. 指示だし・指示受け手順	
6-2. 口頭による指示だし・指示受け手順	
6-3. 指示看護ワークシート・指示注射ワークシート	
第7章 調剤業務ならびに病棟・各部門への医薬品の供給	55
7-1. 処方監査・疑義照会・調剤	
7-2. 調剤薬の交付・服薬指導	
7-3. 薬品交付後の経過観察	
7-4. 注射せんに基づく病棟・各部門への供給	
7-5. 定数配置薬の病棟・各部門への供給	
7-6. 病棟・外来での常備薬の運用	
7-7. 軟膏等略名一覧	
第8章 与薬業務	66
8-1. 与薬基準	
8-2. 経口与薬（胃管からの与薬を含む）	
8-3. 注射による与薬	

8-4.	北里大学病院・北里東病院看護師の静脈注射実施に関する基準	
8-5.	カラーシリンジ	
8-6.	CVポート運用フローの実際	
8-7.	薬物血中濃度モニタリング（TDM）の実施	
8-8.	薬物血中濃度の速報基準（パニック値）対応フロー	
第9章	服薬管理	101
9-1.	薬剤師による病棟薬剤業務	
9-2.	薬学的知見に基づく指導の進め方（入院）	
9-3.	薬剤師による薬剤管理指導	
9-4.	医薬品投与後の経過観察と服薬指導記録作成	
第10章	持参薬の取り扱い	105
10-1.	患者情報の収集・管理・活用	
10-2.	入院時の使用医薬品の確認	
10-3.	持参薬確認手順 13W 病棟の場合	
10-4.	「お薬手帳」の取扱いについて	
第11章	トラブル対応	108
11-1.	注射薬の誤注入時の対応	
11-2.	血管外漏出に注意すべき注射剤について	
11-3.	血管外漏出時・漏出疑い時の処置	
11-4.	副作用報告の方法	
11-5.	副作用情報の参照方法	
11-6.	院内外副作用発現報告システム	
11-7.	麻薬破損・紛失対応	
第12章	緊急時・集中治療領域にて使用する医薬品	120
12-1.	集中治療領域における注射薬調製・投与法（体重 50kg 換算）	
第13章	ハイリスク医薬品	126
13-1.	安全使用において特に注意が必要な主要医薬品	
13-2.	抗がん薬	
13-3.	B型肝炎ウイルス（HBV）の再活性化について	
13-4.	カリウム製剤	
13-5.	ワルファリンカリウム	
13-6.	インスリン	
13-7.	麻薬	
13-8.	向精神薬	
13-9.	筋弛緩薬	
第14章	特殊医薬品	166
14-1.	放射性医薬品	
14-2.	造影剤の副作用について	
14-3.	造影剤の分類	
14-4.	院内特殊製剤	
第15章	各科特別マニュアル	178
15-1.	小児科	
15-2.	手術部門	
15-3.	救急部門・集中治療室	
15-4.	内視鏡部門	
第16章	他施設との連携	184
16-1.	薬 - 薬連携	
16-2.	他施設からの問い合わせ等に関する体制整備	

医薬品安全使用に関するチェックシート

病棟

確認日；平成 年 月 日

担当薬剤師印：

病棟における医薬品の管理	Check
(1) 医薬品安全使用のための業務手順書 ・「医薬品安全使用のための業務手順書」を遵守している。	<input type="checkbox"/>
(2) 医薬品棚の配置 ・類似名称、外観類似の医薬品はなるべく離して配置し、表示に区別をつけ注意喚起できるよう指導・助言を行っている。	<input type="checkbox"/>
(3) 有効期限・使用期限の管理 ・先入れ先出しを原則とし、期限の短い医薬品から使用するよう指導を行っている。また、月1回有効期限・使用期限を確認し、使用予定がなくなった医薬品は速やかに薬剤部に返却するよう指導を行っている。	<input type="checkbox"/>
(4) 保管条件の確認・管理 ・保管条件のある医薬品（温度・湿度・遮光）は、適正な保管方法により管理していることを確認するとともに、保管管理に関して必要な情報を提供している。（冷蔵庫温度 2～8℃）	<input type="checkbox"/>
(5) 医薬品の定数管理 ・適正な配置品目・数量の見直しを月1回行っている。	<input type="checkbox"/>
(6) 規制医薬品：麻薬・覚せい剤原料・毒薬・向精神薬の管理	
a) 麻薬および向精神薬取締法、薬事法等の関係法規と当院の取り決めを遵守して保管・取り扱いを行うよう指導している。	
【麻薬・覚せい剤原料】 管理簿（使用記録）を作成し、麻薬金庫（麻薬保管庫）で保管していることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
【向精神薬・毒薬】 注射薬は管理簿（使用記録）を作成し、施錠された保管庫で保管されていることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
【向精神薬（1種・2種）】 内服薬は管理簿（使用記録）を作成し、施錠された保管庫で保管されていることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
b) 適切な在庫数・数量の決定を行うよう指導・助言している。	
【麻薬注射薬】 病棟看護師の勤務交代時に麻薬管理簿と照合しながら在庫量の確認を行い、管理簿に確認者の記録を残していることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
c) 在庫量の確認を行うよう指導・助言している。	
【麻薬注射薬】 病棟看護師の勤務交代時に麻薬管理簿と照合しながら在庫量の確認を行い、管理簿に確認者の記録を残していることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
【麻薬内服薬・外用薬】 与薬準備時毎に1回服用量、確認者、後在庫数を処方せんに記入していることを確認している。	<input type="checkbox"/>
(7) 特定生物由来製品の管理 ・電子カルテ上でロット番号入力を行うよう指導している。	<input type="checkbox"/>
(8) その他特に安全管理が必要な医薬品の保管 ・特に安全管理が必要な医薬品（要注意薬）の保管に関しては、配置場所を配慮し、さらに必要に応じて注意喚起のための表示を行うよう指導している。薬剤部への請求は最低限とし、オーダが注視された場合は、速やかに薬剤部に返却するよう指導している（カリウム製剤等）。	<input type="checkbox"/>
(9) 処置薬（消毒薬等）の管理 ・品質の確保、誤飲防止、取り間違い防止対策について指導を行っている。	<input type="checkbox"/>
(10) 救急カート ・月1回薬剤師が使用期限および配置状況（表示を含む）、補充不足を確認し、不備があった場合は病棟スタッフに指導している。	<input type="checkbox"/>
医師・看護師などへの情報提供	Check
(1) 新規採用医薬品に関する情報や採用医薬品に関する製薬企業からの使用上の注意改訂情報、回収情報、販売中止情報、包装変更などの各種情報について積極的に情報提供を行っている。	<input type="checkbox"/>
(2) 緊急安全性情報や安全性情報などの重大な医薬品情報について、文書を用いて可能な限り迅速に情報提供および周知徹底を行っている。	<input type="checkbox"/>
患者への与薬における管理・評価	Check
(1) 患者個々の状態に応じた内服管理方法を選択し、確実な与薬を行えるよう、医師・看護師とともに評価・検討を行っている。	<input type="checkbox"/>
(2) 患者個々の状態に応じた調剤様式を選択し、誤服用や飲み忘れを防ぐよう、医師・看護師とともに評価・検討を行っている。	<input type="checkbox"/>

毎月1回確認の後、所定のファイルに保存すること。

薬剤部長確認日；平成 年 月 日 薬剤部長印；

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 183 回 (H26年度実績)
・ 研修の主な内容： ① 新しい医療機器の導入時の研修 ② 特定機能病院における定期的研修 ・ 人工呼吸器 ・ 閉鎖式保育器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 人工心肺装置 など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ((有)・無) ・ 保守点検の主な内容： ① 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電気的安全性点検) ② 終了時点検 (作動点検、外観点検) ③ 安全ラウンド点検 (作動点検、使用法確認) ④ 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検) など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) ② 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) ③ インシデントに基いた研修会の開催	